

三代杉(訳注：英語では「三代目の杉」と記述)

屋久島の絶えず再生している森では、苔で覆われた古い切株から新しい木が生えます。三代杉（訳注：英語では三代目の杉と説明）は、三代の杉の木が前の世代の上に生えていった珍しい例です。一代目が約 2000 年生きた後、倒れ、その上に新しい杉が芽を出し、樹齢 1000 年に達しました。木こりがこの二代目を伐採し、三代目の小杉が生え、今では樹齢 500 年に達しています。三代杉は、樹高 38.4 メートル、周囲 4.4 メートルで、屋久島のこの種の木の中では最も高い木です。縄文杉へと向かう登山道の途上にあります。